

第1学年2組生活科学学習指導案

令和3年6月29日（火）5校時

授業者 大畑 彩香

場 所 体育館・渡り廊下

1 単元名 なつとなかよし ～しゃぼんだまめいじんになろう～

2 単元の目標

夏の自然を見付けたり、遊んだりする活動を通して、夏とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったりして、夏の自然の様子や春から夏への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ、自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
単元の 評価規準		夏の自然の様子や春から夏への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。	夏とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使うものを工夫したりしている。	季節の変化を取り入れ、自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとしたりしている。
小 単 元 に お け る 評 価 規 準	1	①夏の季節の特徴に気付くとともに、多様な夏の楽しみ方があることに気付いている。	①諸感覚を生かして、夏の植物や生き物を観察したり、夏の特徴を見付けたりしている。	①夏の季節に興味・関心をもち、自分の体験や考えたことを進んで話そうとしている。
	2	②シャボン玉で楽しく遊べることや、それらの性質の不思議さなどに気付いている。	②予想したり、試したりしながら、自分なりに遊び方を工夫している。	②みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。
	3	③夏の季節の不思議さや面白さに気づき、伝える活動を通して、その良さや季節と自分の生活の関わりに気付いている。	③伝えたいことが相手に伝わるかどうかを考えながら、伝える内容や伝える方法を考えて発表している。	③季節の変化を取り入れ、みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

4 単元を構成するにあたって

【児童について】

【個人情報保護のため省略】

【教材について】

本単元「なつとなかよし」は学習指導内容（5）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」及び（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を受けて設定したものである。

本単元では、児童が校庭や中庭で季節の変化を感じ取り、思う存分夏にひたって友達と一緒に遊んだり、遊びが楽しくなるように工夫したりできるようにする。シャボン玉は、児童がこれまでに保育所や家庭で経験してきた遊びである。そのときの経験を生かしながら、シャボン玉遊びのこつを見付けてもっと楽しく遊べるように、児童の気付き、思いや願いを大切にしながら単元を展開していく。児童一人一人が思いや願い持ち、友達と関わり合いながら体験活動や表現活動を繰り返すことで、気付きの質を高めることができるようにする。このような学びを通して、日常生活の中にも季節の変化を取り入れ、自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとしたりしている。

【指導について】

①児童が自分の考えをもち、実現するための工夫

- ・体験活動と表現活動の繰り返し

まず、体験活動としてシャボン玉遊びに浸らせる。その後、表現活動として、感じたことや考えたことを伝え合い、もっと〇〇したいという思いや願いを持たせる。そして、その願いを実現させるための体験活動と表現活動をさらに繰り返して行う。その際には、友達と交流したり、見つけたこつや困ったことを伝え合ったりして、次の活動につなげられるようにする。

②考えを交流し合い、学びを深めるための工夫

- ・共通の目的をもった体験や話し合い

6時間目からのシャボン玉遊びでは「しゃぼんだまめいじんになろう」と児童に意欲づけ、「しゃぼんだまけんきゅうじょ」と称して、工夫して遊びながらシャボン玉遊びのこつを見付けさせる。「しゃぼんだまけんきゅうじょ」の遊びでは、共通の目的をもった体験として、全員が同じ願いに向かって工夫してシャボン玉遊びをする。そして、共通の目的を実現するために見つけたこつや困ったことを話し合うことで、話し合いが深まり、気付きの質が高まるようにさせる。

5 指導と評価の計画（全10時間・本時7/10）

小单元名 (時間)	学習活動	評価 規準	評価方法
1 なつはどんな きせつかな (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭探検をして、夏を見付ける。 ・春の校庭の様子と比較し、気付いたことを友達に伝えたり、カードに書いたりする。 ・夏について話し合い、やってみたい夏の遊びを考える。 	思① 知① 態①	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察、発言分析 ・発言分析、カードの分析 ・発言分析
2 なつと あそぼう (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある物を使ってシャボン玉遊びを楽しむ。 ・友達と工夫して遊びながらシャボン玉のこつを見付け、伝え合う。 	知② 思② 態②	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察、発言分析 ・行動観察、発言分析 ・行動観察、発言分析
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある物を使って砂場遊びを楽しむ。【図工】 ・身近にある物を使って水遊びを楽しむ。【体育】 		
3 みつけたなつを つたえよう (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に伝えたいことを考える。 ・絵や絵日記、カードなどを通して、感じたことや気付いたことを友達に伝える。 	知③ 思③ 態③	<ul style="list-style-type: none"> ・発表や表現物の分析 ・発表 ・発表や表現物の分析

6 本時の学習（7／10）

(1) 目標

予想したり、試したりしながら、自分なりに遊び方を工夫することができる。

(思考・判断・表現)

(2) 展開

	学習活動 ・予想される児童の反応	・教師の支援 ☆評価規準
5分	<p>1 前時の活動を思い出したり、本時でどんなシャボン玉のこつが見付けられそうか予想したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きいシャボン玉のこつは、ゆっくり吹くことでした。 ・大きな穴の道具を使うと大きいシャボン玉ができました。 ・ストローを束にしたら、シャボン玉がたくさんつくれそうです。 <p>2 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>一度にたくさんのシャボン玉をつくるこつを見付けよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、前時の活動を思い出させることで、本時でもシャボン玉遊びのこつを見付けたいという気持ちを引き出し、本時の活動につなげる。 ・めあてに児童の思いや予想を入れることで、主体的に取り組めるようにする。
15分	<p>3 友達と遊びながらシャボン玉遊びのこつを見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストローの数を増やしてみよう。 ・強く吹いてみよう。 ・腕を早く動かしてみよう。 ・どの道具がいいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びながら工夫できるように、材料や道具を用意しておく。 ・児童の様子を写真や動画に撮り、話し合いのときに提示できるようにする。
10分	<p>4 見付けたこつや困ったことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストローを増やしたらたくさんできました。 ・強く吹くと連続でたくさんできました。 ・うちわは穴がたくさんあるから、いっぱいできました。 ・腕を大きく動かすといっぱいできました。 ・あまりたくさんできなかつたな。どうしたらいいかな。 ・もっと穴がたくさんある道具はないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見付けたこつについて話し合い、達成感を持たせたり、さらに工夫することの意欲へつなげたりする。 ・遊んでいるときの写真や動画を見せることで、話し合いがより深められるようにする。 ・友達の様子についても知ることで、自分の遊びに生かしたり、いっしょに見付けたりさせる。 <p>☆予想したり、試したりしながら、自分なりに遊び方を工夫している。(思考・判断・表現)</p> <p>【行動観察、発言分析】</p>

10分	5 話し合いを生かしてもう一度遊ぶ。 ・〇〇さんのシャボン玉もしてみたいな。 ・さっきよりたくさんシャボン玉ができたよ。	・すでにこつを見つけた児童には、友達が見つけたこつを試したり、まだこつを見つけてない友達にアドバイスをしたりするように促す。
5分	6 本時の学習を振り返る。 ・穴がたくさんある道具を使うことがこつだと思いました。 ・こつは、強く吹くことだとわかりました。	・本時のめあてについて振り返り、できたことや分かったことを伝え合い、達成感や次時への意欲へつなげる。

(3) 本時で期待する児童の姿

十分満足とされる児童の姿 (3つ) おおむね満足とされる児童の姿 (2つ)	支援を要する児童への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予想したり試したりしながら、自分なりに遊び方を工夫している。 ・ これまでの経験をもとに、予想しながら自分なりに遊び方を工夫している。 ・ 友達と一緒に遊んだり比べたりしながら、自分なりに遊び方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いや願いを聞き出す。 ・ 友達と一緒に遊ぶように促す。 ・ 教師も一緒に遊んだり、感想や気付いたことを聞き出したりする。

(4) 研究の視点

【仮説1】体験活動と表現活動を繰り返すことは、児童が自分の考えをもち、表現するために有効であったか。

→自分なりに予想を立てて、試しながら遊んでいる。
話し合いを生かして、2回目のシャボン玉遊びをしている。
(新たな思いや願いをもつ、友達の遊び方を試す)

【仮説2】共通体験をして話し合うことは、学びを深めるために有効であったか。

→見つけたこつや困っていることを友達に伝えている。
困っている友達にアドバイスをしている。